

広中昇平（自由クラブ）

ボートレース蒲郡の現状と今後について

問 平成29年度からボートレース下関が参入し、ナイトレース場は全国で6場となったが、売り上げへの影響を伺う。

答 SGレース開催の要因もあり、単純比較は難しいが、ナイトレースの競合場が増えたことにより、4月から11月までの前年同月比で約54億円、10・2%



10月にSGボートレースダービーを開催するボートレース蒲郡

の売り上げ減となっている。市長は他場開催のSGレースを視察しているが、その成果を伺う。

答 視察の際には、中央団体にSGレース誘致などの働きかけや、他の施行者と意見交換をしている。成果として、30年10月にSGボートレースダービーの開催が決定し、4年連続でビッグレースを誘致できた。

鈴木貴晶（自由クラブ）

保育園でのおむつの持ち帰りについて

問 おむつの持ち帰り廃止を再検討する考えは。

答 園での処理が困難という理由だけでなく、保護者が子どもの健康状態の確認や成長を実感することにもつながっている。保育士の負担軽減の観点からも、現行の方式を継続したい。

スマートメーターの活用を

問 公共施設の電気料金の削減・省エネのため、



スマートメーターを活用する考えは。

答 メーターの活用により電気の使用状況を把握できるので、施設の状態に適した契約を検討し、これまで以上に節電・省エネ意識を高めていきたい。

来本健作（無党派）

持続可能な観光について

問 従来の観光から生じがちな、環境や文化の悪化、過度な商業化等々を避けつつ、観光地本来の姿を求めていこうとする考え及び

その実践は「持続可能な観光」といわれている。国連は平成29年を「持続可能な観光の国際年」と定め、国連世界観光機構がこの取り組みを主導している。持続可能な観光に関し、本市のシテイセールスの考えは。

答 観光商工課では、観光振興、商工振興を中心としたPR活動や、商工会議所、観光協会の事業の支援をしている。他課では、市公式インスタグラムの運営等を行っている。今後も市役所内部の連携を密にし、官民一体となりシテイセールスを推進していきたい。

松本昌成（公明党市議員）

成年後見制度の利用推進を

問 平成25年に開設した成年後見センターの利用状況と抱える課題を伺う。

答 28年度は437件、132人の相談があり、現在、法人後見は4件である。様々な相談への対応や支援ができるような体制強化が課題と考えている。

手話言語条例の制定を



問 全国で手話言語条例制定の動きがあるが、本市の考えを伺う。

答 市独自の条例制定は考えていないが、県が28年に制定した条例に基づき、障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用促進を図っていききたいと考えている。

竹内滋泰（自民党市議員）

平成30年度予算編成について

問 29年度予算より、1件ごとの査定から枠配分